

ベジテック、県内に新工場

旧工業高校跡地 地元雇用を推進

青果物加工・仲卸大手のベジテック（川崎市）は、旧埼玉県立玉川工業高校跡地（同県ときがわ町、鳩山町）に工場を建設する。8日、遠矢康太郎社長がときがわ町長、鳩山町長とともに県庁を

訪問し、上田清司知事に立地決定を報告した。県と岡町は、県産野菜の活用や地元雇用を期待している。新工場は敷地面積約3万8000平方メートル、工場の規模などは計画中で

が、カット野菜やカットフルーツを主とした食品加工工場となる。2018年4月に着工し、19年4月に操業する予定。常時200人以上が勤務する。同校は13年に閉校。県

がときがわ町に土地を売却し、岡町が同社と借地契約を結んだ。県企業立地課によると、遠矢社長は「大きな敷地を確保できたので、最先端の工場を建築し、地元雇用を積極的に行っていきたい」と話し、上田知事は「県産野菜を積極的に活用してほしい」と求めた。